

都留高PTAだより

令和6年3月1日発行
都留高校PTA
印刷機大月プリント社



PTA活動の意義

PTA会長 小宮 広 督

皆様には、日頃よりPTA活動に対し、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

新型コロナウイルスが五類感染症に移行し、以前の生活を取り戻し始めています。

前年度はオンラインとの混合で行われた関東ブロック大会も、今年度の栃木大会は現地参加で行われ、都留高からは私と一次次部会長の二人で、二日間参加しました。分科会の発表では山梨の農林高校と、神奈川の伊勢原高校のPTA活動への取組について伺うことができました。県P手配のバスの移動中や懇親会なども、県内の高校同士が交流する貴重な経験となりました。

今年度私は県高P連副会長と、関東高P連の理事も兼任させて頂いております。そのため県内外のPTAの方々と話す機会も、たくさんありました。

コロナ禍の三年間、多くの学校がPTA活動を縮小した中、新しい活動にチャレンジしていた学校もあったことを知り、他校に遅れをとらないためにも、学校間の交流の大切さを感じました。

昨今、PTAの必要性が話題に上

ります。しかし、本来のPTAの意義であるより良い教育環境をつくるため、先生方と保護者が協力し合うことは、子どもを預けている以上必要だと私は考えます。これからもPTA活動への御理解と御協力を、よろしくお願い申し上げます。



講演会の様子



「自学進取」と主体性

校長 荻野 智 夫

都留高校第七十四回卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。また、PTA会長の小宮様をはじめ役員の皆様、並びに一般会員の皆様には、本校の教育活動に深い御理解と多大な御協力を賜りました。あらためて、深く感謝申し上げます。

思い起こせば、卒業生の高校時代の多くの時間は、新型コロナウイルスの感染拡大の時期と重なってしまいました。分散登校や部活動の自粛、学校行事の中止や縮小など、制限の多い高校生活になりました。学校のできることが限られていたこの時期、私たちは生徒の「主体性」に期待するしかありませんでした。卒業生の皆さんもその期待に応え、校訓「自学進取」の精神を発揮して自ら行動し、学びの継続に協力してくれました。

新しい学習指導要領では、学習の方法として「主体的・対話的で深い学び」が推奨され、学習評価では生徒の「主体的に学ぶ態度」を積極的に評価することが求められています。社会的な要請の面から見ても、これからの学びは「主体性」がキーワードになると言えるでしょう。

子どもが母国語を学習するとき、彼らにはある音声が何か特定のものを記号的に表しているという「ことばの規則」を知らないままに、ことばの海に投げ込まれます。にもかかわらず、子どもは周囲の人の語ることばの意味を一つ一つ「発見」していきます。人々が発する音声が意味を伝える記号であることに気づくためには、「この謎の音声は何かの合図ではないのか？この記号の

配列には何か規則性があるのではないか？」という問を子どもが自ら立てることが必要です。誰も子どもに代わってこの問を立てることはできません。学びのドラマの主人公は決して発信者（先生）ではなく、受信者（生徒）なのです。私は、母語のように生きて働く知識を身につけるための「深い学び」は、自ら学ぶことを欲望することではなく、成しなないと考えています。

今後、グローバル化はますます進展し、新しい技術もどんどん実用化され、世の中はめまぐるしく変化していくでしょう。そんな社会で自分らしく生きていくためには、学び続ける他はありません。都留高校では、新しい時代を生きるいく生徒に必要な資質として掲げた「10の力」の中で、特に「主体的行動力」を重視しています。先生方もこの資質の育成を念頭に、授業はもちろん、学校行事や部活動を含めデザインを考えています。ましてや、都留高校の校訓は「自学進取」。生徒が本校で授業や学校行事、部活動に真摯に取り組むことは、社会が求める「主体性」を培うことに繋がっているはずです。

多様な生徒の可能性を伸ばすためには、学校と家庭、そして地域が同じ方向を向いて協力していく必要があります。その意味で、来年度から始まるコミュニティ・スクールの取り組みは、本校がさらに飛躍するチャンスと捉えています。保護者の皆様との連携をさらに密にしながら、生徒の成長を支えていきたいと思っています。今後とも、何卒よろしくお願いいたします。

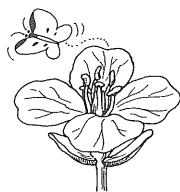
若鶴祭の様子と保護者からの感想

今年は、新型コロナウイルスへの対応が変更されたことにより、生徒たちの学校生活が新たな形で少しずつ再開されました。六月二十六日、二十七日に開催された若鶴祭でも、四年ぶりに合唱が復活するなど話題も満載でした。

早い時期から長い時間をかけて準備をし、様々な生徒がそれぞれの役割を担い、持てる力を存分に発揮できる場です。担当ごとに取組を経て迎えた輝かしい生徒たちの二日間は素晴らしいものでした。

まず一日目は、開祭式、各ブロックの動画発表、合唱部発表、軽音楽部発表が行われ、工夫を凝らした発表で会場を盛り上げてくれました。二日目は、吹奏楽部発表、合唱コンクール、書道部パフォーマンス、有志発表などが行われました。暑さに負けず、全力で楽しんでいる生徒の姿が印象的でした。

若鶴祭に参観された保護者の皆様の声を匿名にて掲載させていただきますのでご覧ください。



生徒が自分たちでつくり上げた学園祭だと感じました。子供たちの元気は大人も見て元気をもらいました。誰にでも挨拶をしてくれた。都留高生、素晴らしいです。今日は楽しい一日でした。

ブロック合唱を楽しみにして来ました。吹奏楽部の演奏も楽しかったです。合唱は本当に感動しました。コロナの数年を思うと「歌」を歌ってこなかった皆さんが、ここまで頑張ったことに嬉しさを感じました。五ブロック全てに大拍手です。

初めて学園祭を見ることができ、とても嬉しかったです。生徒が自主性をもち積極的に取り組む様子が見られ感動しました。



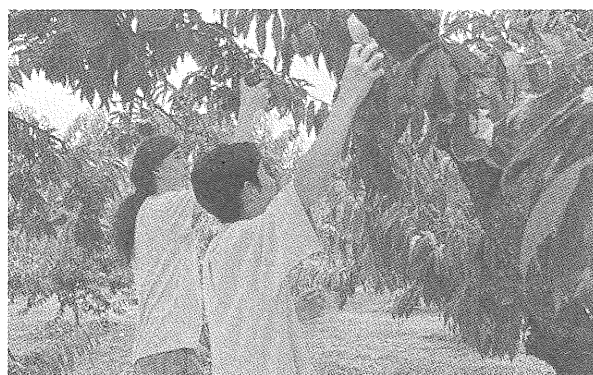
子供たちが自身でつくり上げた、そしてめいっぱい楽しんでいる姿を見られて、とても嬉しく思いました。コロナで自粛されていた活動も始まり、大いに楽しんでもらいたいです。温かい目で見守って下さっている先生方にも感謝です。

生徒みんなで楽しく参加されていて、とても感動しました。日々の勉強や部活動と忙しい中でもダンス・合唱等に取り組んできたことに感心しました。また、家では見ることができない我が子の楽しそうな顔を見られて良かったです。

合唱が素晴らしかったです。書道部も格好良くメッセージとして心に響きました。来期も楽しみにしています。

ホストファミリー

国際理解教育の一環として令和五年七月三日から十日の期間において、アメリカ合衆国(ミネソタ州)サウスウエスト高校より受け入れを行いました。短期間ではありますが、参加生徒とホストファミリー双方がそれぞれ積極的な意識を持ち合い、お互いに教え、お互いに学ぶことができる極めて有意義なプログラムです。学校ホームページにも様子が掲載されていますが、今回は実際に受け入れをされた小林さんの体験談を紹介させていただきます。大変有意義な時間を過ごされ、羨ましく思う内容です。お楽しみください。



ホストファミリー 体験記



三年保護者
小林 博子

語学力のない夫婦にとって不安がある反面、貴重な体験であることに楽しみを感じ、ホストファミリーを引き受けました。

令和五年七月三日から七月十日までアメリカミネソタ州にあるサウスウエスト高校からの留学生オリバーが我が家にホームステイをしました。

オリバーはとてもパッションに満ち溢れており、日本文化に興味をもち積極的に話しかける好青年でした。私たち夫婦は、もう一人子供ができたように楽しい時間を過ごすことができました。携帯電話の翻訳機に助けられながらも、ジェスチャーを交えつつお互いを理解しようという気持ちがあることで、片言であっても心が通じ合っていたのだと思います。将棋も自分で覚えたと言うオリバーは息子と対局しました。オリバーは強く、勝者はいつもオリバーでした。あつという間の一週間でオリバーと過ごした日々は一生の宝物です。

二〇二四年元日、オリバーと息子はSNSでやり取りをしていました。いつまでも二人の交流が続きますように。

保護者ボランティアの方々の御協力を得て、学校図書館の改装作業を行いました。生徒たちがより使いやすい図書館になるよう、御協力いただきました。ボランティアの方々より感謝をいただきましたので紹介いたします。

短時間でしたが図書館の改装作業のお手伝いをさせていただきました。

段ボールに入った本が何十箱とあり、その箱に入った本をエリアごとに分別しながら本棚に入れていく作業でしたが、本の種類の多さには大変驚きました。

児童文学評論家の赤木先生の指示のもと、生徒たちが手に取りやすいように、読みたい本がすぐ見つかるように、読み手の気持ちにも考えながら細かく配置を指導する姿を見て、本に対する愛情がひしひしと伝わってきました。

生まれ変わった図書館にたくさんの生徒さんが足を運び活用していつて欲しいと思います。

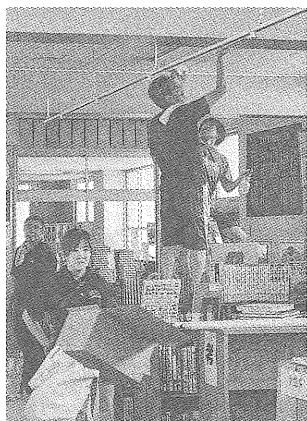
初めて図書館に入り、改装作業を手伝わせていただきました。中に入ると、入口には月間の貸出数表が貼り出されてあり、たくさん読まれている生徒の冊数に感心しきりでした。

分野ごとに仕分けられた本棚には、あふれるほどの書籍があり、充実ぶりを伺うことができます。また年数経過している本を選択していく作業では、歴史を感じる興味深い書籍がたくさんありました。

図書館は様々な分野の本を読むことができて、自分の知識の幅を広げられる場所だと思います。この改装を機に、多くの生徒が学びの場として活用されることを期待します。

息子から図書館の本を野球部員も運ぶ手伝いをしていると聞き、私も図書館改装の手伝いが何かできればと思っていたところ、声を掛けていただき飛び入りで参加させていただきました。

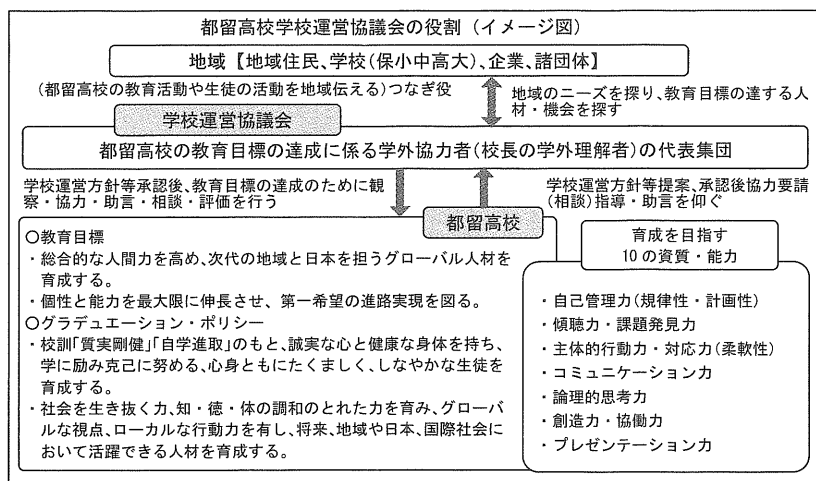
休日にもかかわらず、何人もの保護者が参加していて正直びっくりしました。私も普段なかなか学校行事に参加するのが難しくお任せしていましたが、今回参加してとても良かったと思いました。作業は大変でしたが、あんなにもたくさん本があることを知り、子供たちにも図書館を大いに利用してもらいたいと思いました。ネット社会の現代ですが、改めて本を手に取り読むことをしたいと思います。



赤木先生（右端）との作業の様子

PTA副会長 塩澤恵美

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）とは？
今年度、PTA副会長の立場で学校評議員に任命され、学校評議員会及び学校運営協議会（コミュニティ・スクール）設置準備委員会に参加させていただきました。学校評議員会では、学校教育目標を具現化するために、どのような教育活動をしているか学校より説明を受けて理解し、意見を述べる役割をさせていただきました。さらに、来年度はより多く地域の方々に学校運営にかかわっていただき地域とともにある学校づくりを推進し、地域の力で子どもたちを育成していくために『学校運営協議会（コミュニティ・スクール）』



『よのなか科』授業に参加して

を設置します。コミュニティ・スクールでは、学校・家庭・地域が「将来、地域社会を担っていく子どもたちにどのように育ってほしいか」という目標・ビジョンについて熟議した上で共有し、学校・地域・家庭が連携・協働して取り組めることは何かを合議の上で決定し、コーディネートします。コミュニティ・スクールが設置されることで、みんなで協力して子どもたちを育てていこう、また子どもたちからも学んでいこう、という地域体制がつくられるのではないか、と思います。

第二回学校評議員会及び授業参観に所用で参加できなかったため、別日に藤原和博先生の「よのなか科」に参加してきました。この日は「自分のカラダをどこまでいじっていいか？プチ整形手術から性転換手術」について考える学習でした。授業では、自分が知らない語句や事柄についてインターネットで調べ、調べたことをグループで共有します。さらにグループ内で賛成、反対の立場で討論する、賛成と反対を交代して議論します。五十分の授業でしたが、様々な活動が盛り込まれていました。知識をインプットするだけの授業ではなく、学習して得た知識を友だちに伝えたり、自分の考えを述べたりするなど、アウトプットする学習が工夫されていました。生徒と一緒に参加している自分自身も、ずっとテーマについて調べたり考えたりしなければならなく忙しかったのですが、新たな知識や考えにも触れられる楽しい時間でもありました。このような過程を経て主体的に学ぶ態度が育まれるのだと思います。今後この「よのなか科」の学習が、都留高校の学習にどのように組み込まれていくかが期待されます。

かわいいは都留高を救う

生徒指導主事 駒田 健嗣

本年度より男子Yシャツ、女子セーラー服の夏服オプショ
ンとして、ポロシャツが導入
されました。導入のきっかけ
となったのは、「つる探」の活
動でした。

研究テーマは「かわいいは
都留高校を救う」。アンケート
の実施と考察、導入必要性の
検証、業者との意見交換、製
品企画と続いた研究は、生徒
間の発表の場を経て、教員の
耳にも届くことになりました。
ポロシャツは通気性が良く、
暑い夏の日には生徒たちにとっ
て快適な選択肢となること、
また、洗濯が容易で耐久性も
あり、家庭での手間を減らす
ことができること等が導入の
決めてとなりました。研究は
SDGs12の目標である「つ
くる責任つかう責任」の観点



からも考察されていきました。
地球温暖化が深刻な問題とな
る今、持続可能な社会へ向け
た生徒自身にできる取り組み
として、ポロシャツ導入をと
らえている点も評価されまし
た。

最終デザイン決定にあたっ
ては、PTA役員の方のご意
見も頂戴し、参考にさせてい
ただきました。今後も生徒・
保護者の意見に耳を傾け、よ
りよい都留高を創ってけれ
らと考えています。

有意義な高校生生活のために

三年次部会長 長谷部 賢

子どもの成長と共に、保護
者が学校を訪れる機会が減少
する中、PTA役員、また野
球部保護者会長という役をい
ただいたことで、生徒の学校
生活や部活動を目にする機会
を得ました。

「都留高生は礼儀正しく、ま
じめで勤勉」そんな印象を嬉
しく思うと同時に、「青春を存
分に楽しんでいるのかな？」
と感じることもありました。
大学合格に向け勉学に励むこ
とは重要です。同様にスポー
ツやボランティア等々、心か

らチャレンジしたいことに
出会えたら、その道に邁進す
るのも素晴らしいと思います。

大谷翔平選手や藤井聡太棋
士は、特別で選ばれた人かも
しれません。しかし高校時代
からビジョンを明確にし、誰
よりも努力を重ねたから今が
あるのだと思います。今後の
人生の設計図を自由に描ける
のが高校生の特権です。輝く
将来の基盤となる有意義な高
校生活が過ごせるよう、保護
者も全力でサポートして参り
ます。

フードドライブの活動を通して

上野原支部長 笠井 麻里

「フードドライブ」という言
葉が浸透し、様々な場所です
の活動を目にするようになり
ました。本校でも、今年度も
六月と十二月の二回実施され、
併せて約百十七kgの食品の御
提供がありました。十二月の
実施が十一回目の取り組みと
なり、これからも続けて欲し
い活動の一つと思います。

七月、家庭クラブ委員会代
表生徒さんとともに、PTA
上野原支部の代表が、南アル
プス市にあるフードバンク山

梨まで、回収された食品搬送
の協力をさせていただきました。
上野原市でウクライナから
の学生難民を受け入れている
方によると、フードドライブ
からの援助に大変助けられて
いるそうです。フードドライ
ブの活動が、フードロスや貧
困対策だけでなく、社会情勢
に触れたり「おすそわけ」の
気持ちを感じたりする機
会になればいいと思いました。



編集後記

新型コロナウイルス感染症
が第五類感染症に移行されま
した。今年度は、教育活動で
再開される内容が増えたり、
保護者も参観したりできるよ
うになったことで、子どもた
ちの学校生活を身近に感じら
れ、保護者として嬉しい一年
間でした。このPTA新聞か
らそのような様子が伝わる
といいな、と思います。学校生
活を支えてくださったすべて
の方々、作成に御協力いた
だいた方々に感謝申し上げます。

(女性部一同)

